

## ■許容曲げ半径について

電線・ケーブルに過度の曲げが加わると、電氣的性能や機械的強度が低下するなどの不具合が発生する可能性があります。図よりも小さくならないように、できるだけ大きい曲げ半径となるように作業してください。また、束巻き製品などを繰出す際には、ターンテーブルを使用するなどして「キンク」や「ねじれ」が発生しないようにご注意ください。

## ■通信ケーブルの劣化要因

- ・機械的要因（衝撃、圧縮、屈曲、捻回、引張、振動等）
- ・熱的要因（低音、高温による物性の低下）
- ・化学的要因（油、薬品による物性低下）
- ・電氣的要因（過電圧や過電流など）
- ・通信ケーブルの内部への浸水（結果的に物理的 / 電氣的劣化を引き起こす）
- ・紫外線・オゾンや塩分付着（物性低下）
- ・鳥（キツツキ等）、虫（蟻、シロアリ、クマゼミ等）、動物（鼠、リス等）による外傷
- ・カビ等の微生物による劣化
- ・施工不具合（端末及び接続処理、接地処理、外傷等）
- ・猟銃（散弾銃等）による外傷

